付録六　予備洗浄方法

A　千九百九十四年七月一日前に建造された船舶について

予備洗浄方法は、附属書Ⅱの特定要件を満たすために要求される。この付録は、当該方法をいかに行うかについて説明する。

非凝固性物質についての予備洗浄方法

1　タンクは、十分に高い水圧で作動するロータリー式ウォータージェットによつて洗浄する。X類の物質の場合には、洗浄装置は、タンクのすべての表面が洗浄される位置で作動するものでなければならない。Y類の物質の場合には、一の位置のみを使用しなければならない。

2　洗浄の間、タンクにおける水の量は、連続的にスロップを排水し、吸引点への流れを促進すること（横傾斜及びトリムを積極的に調節）によつて最小のものにとどめる。この条件を満たすことができない場合には、洗浄方法は、洗浄と洗浄との間にタンクから水を完全にストリッピングして、三回繰り返すものとする。

3　摂氏二十度において一秒当たり五十ミリパスカル以上の動粘度を有する非凝固性物質は、熱水（少なくとも摂氏六十度以上）で洗浄する。ただし、当該物質の特性が洗浄をより効果的でないものとする場合は、この限りでない。

4　使用される洗浄装置のサイクルの数は、表六―一に掲げる数を下回つてはならない。洗浄装置のサイクルは、タンク洗浄装置の二の連続する同一の方向付け（三百六十度の回転）の間の期間とする。

5　洗浄の後、タンク洗浄装置は、管、ポンプ及びフィルターを洗浄するために十分に長く作動するようにしておくものとし、沿岸の受入施設への排出は、タンクが空になるまで継続させる。

凝固性物質の予備洗浄方法

1　タンクは、取卸し後できる限り速やかに洗浄する。可能な場合には、タンクは、洗浄の前に加熱する。

2　ハッチ及びマンホールにおける残留物は、予備洗浄の前に除去しておくことが望ましい。

3　タンクは、十分に高い水圧で作動するロータリー式ウォータージェットにより及びタンクのすべての表面が洗浄される位置で、洗浄する。

4　洗浄の間、タンクにおける水の量は、連続的にスロップを排水し、吸引点への流れを促進すること（横傾斜及びトリムを積極的に調節）によつて最小のものにとどめる。この条件を満たすことができない場合には、洗浄方法は、洗浄と洗浄との間にタンクから水を完全にストリッピングして、三回繰り返すものとする。

5　タンクは、熱水（少なくとも摂氏六十度以上）で洗浄する。ただし、凝固性物質の特性が洗浄をより効果的でないものとする場合は、この限りでない。

6　使用される洗浄装置のサイクルの数は、表六―一に掲げる数を下回つてはならない。洗浄装置のサイクルは、タンク洗浄装置の二の連続する同一の方向付け（三百六十度の回転）の間の期間とする。

7　洗浄の後、タンク洗浄装置は、管、ポンプ及びフィルターを洗浄するために十分に長く作動するようにしておくものとし、沿岸の受入施設への排出は、タンクが空になるまで継続させる。

表六―一　使用される洗浄装置のサイクルの数

物質の分類	洗浄装置のサイクルの数	
	非凝固性物質	凝固性物質
X類	1	2
Y類	1／2	1

